

きたるべき学校DXの波にどうする？

校長 平塚 専一

「DX」をどうしても「deluxe (デラックス)」と読んでしまいそうになります。子どもの頃、車の後部に「DX」のエンブレムステッカーがついていると、その車はデラックスなグレードで、スタンダードより豪華なのだとわかっていました。そのうち「GT」「Limited」といったさら豪華な車種が出てきたため「DX」への憧れは次第に無くなるわけですが、その語感には特別なものがあります。

Society5.0の時代に生きる私たちにとって、「DX」は「DigitalTransformation」、つまり「デジタルによる変革」を指すのでしょう。「DX」は目標、「AI」や「IT」はそのための手段と言われますが、学校現場においても「学校DX」という言葉が使われはじめてきました。これは、デジタル技術を活用することにより、授業や評価の方法、生徒の学習環境が大きく変化することを意味します。生成AIには無限の可能性があります。ナイト2000や鉄腕アトムのように頼りになる相棒になるかもしれません。生徒のどんな質問に対しても、決して疲れず、24時間答え続けるでしょう。しかし私たちは、AIがつくる偽の画像や文章、音声によって「何が真実かわからなくなる世界」が創り出されることも察知しています。この道具を使いこなし、真にデラックスな世界を創ることができるのか、まさに試される時がきています。